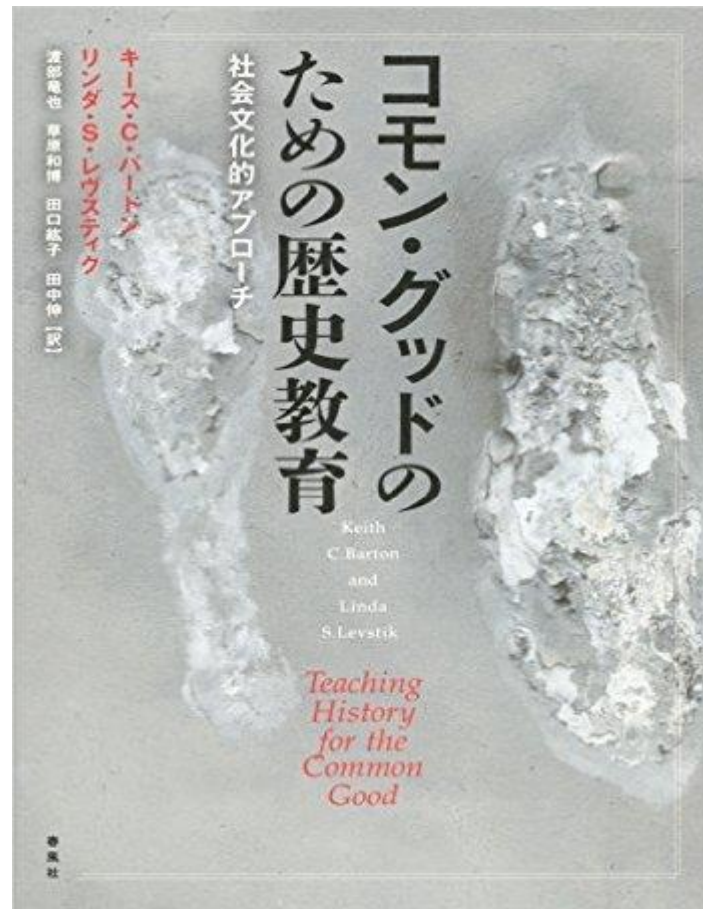


バートン先生+レヴスティク先生招聘事業 東京国際会議 **参加無料**

主題： 社会科教育研究の本質—歴史教育と教師教育の観点から—



#### 国際会議の基本コンセプト

バートン・レヴスティク著（渡部竜也・草原和博・田口紘子・田中伸訳）  
『コモンウッドのための歴史教育』（春風社刊）を材料に、社会科(歴史)教育  
研究の在り方、教師教育の在り方について、著者：インディアナ大学 バート  
ン氏、ケンタッキー大学 レヴスティク氏をお招きし、日米で議論する。

日時： 2016年5月28日(土)・29日(日) 12:30受付、13-17時

場所： キャンパス・イノベーションセンター・東京 1階：国際会議室  
(山手線 JR 田町駅芝浦口すぐ)

構成： 5月28日(土) 社会科教育(歴史教育)の研究の在り方  
5月29日(日) 社会科教師教育の在り方

運営・司会： 渡部竜也(東京学芸大学)

連絡先： 池野範男(科研代表 広島大学)

参加申込： 当日でも参加可能ですが、準備の都合で、できるだけ、事前にメ  
ールでお申し込みください。 [nikeno\(at\)hiroshima-u.ac.jp](mailto:nikeno(at)hiroshima-u.ac.jp)

主催： 「多様性と民主主義を視点としたシティズンシップ教育の国際比較研究」

海外招聘者

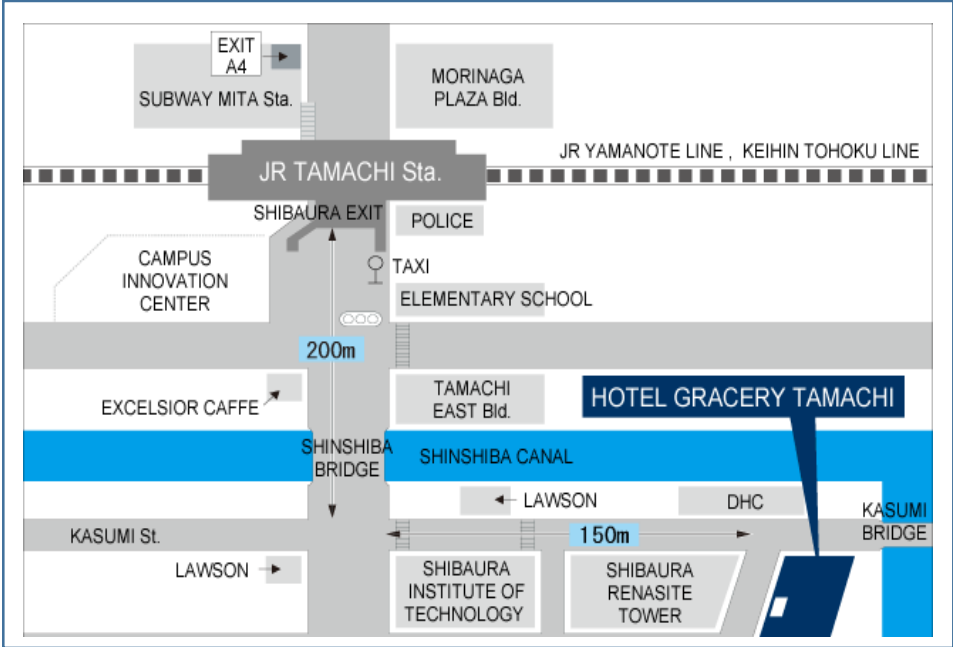


ケンタッキー大学  
リンダ・レヴスティク先生



インディア大学  
キース・バートン先生

会場：キャンパス・イノベーションセンター・東京



第1日目： 5月28日（土）午後 12:30 受付 13-17時。

歴史教育研究とはどのようにあるべきなのか

◎『コモン・グッドのための歴史教育』を読んでの感想と代案

①渡部竜也（東京学芸大学）

    バートン・レヴスティクの歴史教育論と歴史教育研究の紹介

②レヴスティク・バートン先生の説明

③コメント 1：原田智仁先生（兵庫教育大学）

          2：渡辺雅子先生（名古屋大学）

          3：須賀忠芳先生（東洋大学）

趣旨：

私たち研究者は歴史授業をどのように、そしてなぜ調査せねばならないのか。

**How and why do we research history teaching and learning in the class?**

**In order to “change” the traditional history class, or not?**

なぜすべての人が歴史を学ばなければならないのか。私たち教育研究者は教室での歴史授業をどのように、そしてなぜ調査せねばならないのか。それは伝統的な歴史の授業を変革するためなのか、それともそうではないのか。こうした問いに伝統的な社会科教育の議論を基盤としながらも、これに「社会文化的アプローチ」「コモン・グッド」を新たな鍵概念を加えて真っ向から向き合い議論を展開したのが、キース・バートン氏とリンダ・レヴスティク氏である。

彼らは、子どもたちの歴史の学びや教師の歴史教授の実態を、4つのスタンス×各3つの目標×6つのツールによって、帰納的に整理している。これらに対して、彼らは、多元主義的民主主義社会に有意に参加できる市民の育成という視点から演繹的に分析・評価するアプローチを提示している。このアプローチは、リサーチとセオリーメイキングが上手くマッチングした、これまでにない研究理論である。

こうしたアプローチに対して、今後我が国の教育者たちはどのように対峙すべきか。両氏のアプローチや議論の展開を踏まえ、自身のこれまでの研究（研究姿勢や研究アプローチ）を顧みたとき何が言えるのか。歴史教育をその研究の主軸としながらも、それぞれ異なる目的、アプローチを持って展開してきた我が国の歴史教育研究の第一人者の方々に、彼らのアプローチの魅力や課題、そして自身のこれまで採ってきた研究アプローチの意義と課題、さらに今後の歴史教育の展望について、ざっくばらんに意見を述べ合う場にしたい。

第2日目： 5月29日（日）午後 12:30 受付 13-17時

社会科教師教育カリキュラムを問う

①渡部竜也（東京学芸大学）バートン・レヴスティクの教師教育論の紹介

②バートン・レヴィスティク先生の説明

③登壇者 1： 石井 英真先生（京都大学）

2： 佐久間亜紀先生（慶應大学）

3： 桑原 敏典先生（岡山大学）

趣旨：

歴史教師に求められる資質能力や知識とは何か。

そしてそれらを育成するために、学部教育やその後の研修体制、

そして学校の専門職共同体はどうあるべきなのか？

**What is the competence and knowledge necessary for history teachers?**

**teachers college curriculum, teacher training program, and professional communities?**

歴史教師に求められる資質能力や知識とは何か。そしてそれらを育成するために、学部教育やその後の研修体制、そして学校の専門職共同体はどうあるべきなのか。歴史教師になるためには、まず歴史内容の基礎を知っておかねばならないというのは本当か。また歴史内容の基礎とは何か。それは歴史学者にわかることなのか。教育学者が教えるべきは歴史領域の教師が持つ知恵や教授法的内容的知識（PCK）、そして現場の歴史教授学習の実態に関する各種のデータであり、歴史学の内容や規範性を歴史学者が教えれば、あとは各自の教師が自分の持つ教育目的を基にカリキュラムや授業の形に翻案するだろうから、授業づくりにおいては教師と教育学者、歴史学者の三者共同で議論をしていくことで、良い教師ができるというのは本当なのだろうか。

バートン氏は、これに対して「ねらいをめぐる議論（aim-talk）」の重要性、そして歴史の目的意識（教授動機）の重要性を主張し、PCKやその他の知識を云々より、このねらいをめぐる議論を行うことができるようになるように支援していくことこそが、歴史教師に求められることだと主張する。

この見解に対して、我が国のPCKの重要性を主張する論者、「ねらいをめぐる議論」を重視する論者それぞれにこの見解の意義や課題、そして歴史教師の育成という課題に教育者はどう向き合っていくかを検討し、議論したい。